

「柏崎の水」

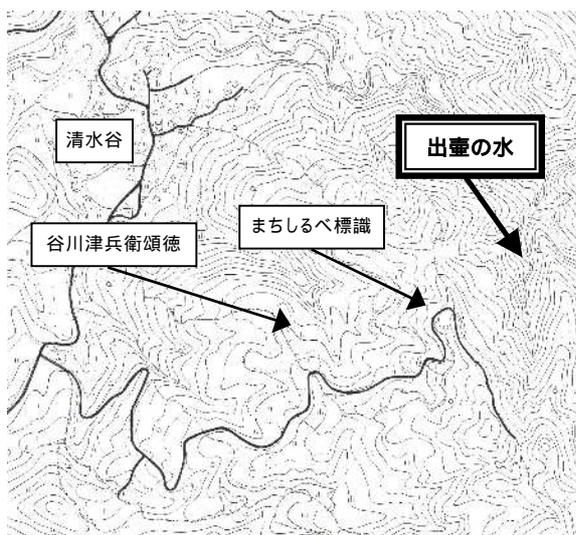
清水谷 でつぼ 出壺の水

「出壺の水」は黒姫山の中腹から湧き出している。この清水は豊富な湧水量と清冽さで知られ、新潟県庁ホームページでは「新潟県の名水」のひとつとして紹介されている。柏崎青年会議所が2000年に清水谷の黒姫山登山道入口に設置した まちしるべ標識には「黒姫山のブナ林を通して湧き出る清水で、春先には水量が毎時1万トンを超え、水のおいしさと豊かさを私たちに教えてくれています。」と記されている。

出壺の水は谷川新田の水源でもある。谷川新田は、文政年間(1819~1830)に清水谷集落から黒姫山に至る登山道の中腹に開拓された新田である。谷川津兵衛により開発されたことからその名がついた。出壺の水から谷川新田まで水を引くための水路は、その距離約2.5km。急な斜面と硬い岩盤に阻まれ工事は困難を極めたという。当初、深沢(現在の大字東条)の重野半兵衛が工事に着手したが、難工事のためか半ばで資金不足に陥った。新屋敷(現在の諏訪町付近)の堀佐左衛門の資金で工事は継続されたものの、再び頓挫してしまった。そして谷川津兵衛がこれを引継ぎ、ついに水路を完成させたのである。完成までの費用は2000両余り(「柏崎文庫」)どれほどの期間を要したかは不明だが、この事業の完遂により水田が拓かれ谷川新田が成立した。



谷川新田 谷川津兵衛頌徳碑から黒姫山方面を望む



矢印は、おおまかな位置を示したものです

この水は谷川新田のみならず清水谷全体をも潤しており、その恵みの大きさ、地元の人々の感謝の念は計り知れない。また、清水谷という地名も、出壺の水が源流である出壺川(清水谷川)に由来しているとのことである。(「角川日本地名大辞典」)

大正10年、開拓関係者の霊を祀るため、清水谷の人々により谷川神社(石の祠)が建立された。また、昭和15年11月6日には、津兵衛の偉業を称え頌徳碑が建てられた。碑の除幕式典は津兵衛の子孫をはじめ多数の関係者が参列し、盛大であったという。その碑文は、次のように締めくくられている。

あゝ黒姫山巍巍として永く聳え出壺の泉滾滾として盡くる
時を知らず 翁の事業亦實に千古氾びずと謂うべきなり

碑文の全文は、ソフィアセンターホームページの「郷土のことを調べる」「調べたいときに」「出壺(でつぼ)の水と谷川新田」で見ることができます

参考文献

- 「鶴川の話」高橋義宗 著(224 ㌘)
- 「柏崎文庫」(16)関甲子次郎 著(080 ㌘16)
- 「柏崎市伝説集」柏崎市教育委員会 刊(388 K㌘)

- 「新潟県の名水」新潟県環境保健部 刊(518 N㌘)
- 「野田」野田小学校校舎改築促進実行委員会 刊(376 K㌘)
- 「名水の旅 新潟県」新潟日報事業社出版部 刊(450 N㌘)